

【聖別: sanctification】

聖別とは聞きなれない言葉ですが、簡単に言えば聖なるものになるということです。レビ記 19 章 2 節『…あなたがたは聖なるものでなければならない。あなたがたの神、主であるわたしが聖だからである。』【'You shall be holy, for I the Lord your God am holy.】人が聖でなければならないのは、神に受け入れられるためです。聖書に書かれてあるとおりですが、続いて、主の聖なるものを冒した者は、神の民から断ち切られるとも書かれてあります。では、聖なるものの反対語は何かというと、レビ記 10 章 10 節『こうしてあなたがたは、聖なるものと俗なるもの、また汚れたものときよいものとを分け』【that you may distinguish between holy and unholy, and between unclean and clean,】この個所では「聖なるもの」と「俗なるもの」を比較して書かれてあります。他の訳では「普通」とか「常」ともあります。言葉を調べていくと、この言葉「俗なるもの」は、これ自体悪ではないが、このままの状態では聖なるものと言えず、神に受け入れられない、とユダヤ文化では考えられているのではないのでしょうか。レビ記 19 章 11～12 節『11 盗んではならない。欺いてはならない。互いに偽ってはならない。12 あなたがたは、わたしの名によって偽って誓ってはならない。そのようにして、あなたの神の名を汚してはならない。わたしは主である。』【11 'You shall not steal, nor deal falsely, nor lie to one another. 12 And you shall not swear by My name falsely, nor shall you profane the name of your God: I am the Lord.】ありのままの状態では、神に受け入れられることがないのはもちろん、ありのままの状態だと、人は「盗み」「欺き」「偽りの誓い」を平然と行うものです。何の悪びれもなく。それが神の名をけがしていることも知らずに。

新約聖書では、どう書いてあるのでしょうか。ヨハネ 17 章 19 節『わたしは彼らのため、わたし自身を聖別します。彼ら自身も真理によって聖別されるためです。』【And for their sakes I sanctify Myself, that they also may be sanctified by the truth.】ここで真理ということばが出てきます。真理を説明すれば、「永遠に変わらないもので、絶対的なもの」と言えます。そういうものが存在するのでしょうか。聖書を知らない者は、存在しないというでしょう。それが正しい答えです。すべてものは移り行くからです。しかし、聖書には真理とは何かが書かれています。ヨハネ 14 章 6・17 節『6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。17 この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。』【6 Jesus said to him, "I am the way, the truth, and the life. No one comes to the Father except through Me. 17 the Spirit of truth, whom the world cannot receive, because it neither sees Him nor knows Him; but you know Him, for He dwells with you and will be in you.】ありのままの人は真理であるイエス・キリストを知ることができません。彼は変わることなく、永遠に存在される方です。そして、「盗み」「欺き」「偽りの誓い」を行うことができません。ヘブル 9 章 12～14 節『12 また、雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分(イエス・キリスト)の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました。13 雄やぎと雄牛の血や、若い雌牛の灰を汚れた人々に振りかけると、それが聖なるものとする働きをして、からだをきよいものにするのなら、14 まして、キリストが傷のないご自分を、とこしえの御霊によって神にお献げになったその血は、どれだけ私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者にすることでしょうか。』【12 Not with the blood of goats and calves, but with His own blood He entered the Most Holy Place once for all, having obtained eternal redemption. 13 For if the blood of bulls and goats and the ashes of a heifer, sprinkling the unclean, sanctifies for the purifying of the flesh, 14 how much more shall the blood of Christ, who through the eternal Spirit offered Himself without spot to God, cleanse your conscience from dead works to serve the living God?】偽ることのできないイエス・キリストは、十字架に架かることによって私たちを聖なるものにして下さいました。人は自分で自身を聖なるものにするのができません。永遠に変わらず、真理であるイエス・キリストが聖なるものにして下さり、神に受け入れられる者としてくださいます。聖別とは、生まれながらの性質を持っている者を聖なるものと変え、「うそ」「偽り」「欺き」の中に生きている世界から、神に受け入れられる永遠に変わらない真理の世界に生きる者になることです。